

【礼拝賛美】神の国と神の義を（2回）
神の国と神の義を まず求めなさい
そうすればみな与えられる
ハレル ハレルヤ

【今週は受難週】

マルコの福音書に見る受難週

第1日・パームサンデー 日曜日「エルサレム入京」

マルコ11章1〜11節

第2日 月曜日「宮ぎよめ」

マルコ11章12〜19節

第3日 火曜日「エルサレムでの宣教」

マルコ11章20節〜14章11節

第4日 水曜日「ベタニヤでの憩い」

（聖書の記述はありません）

第5日 木曜日「最後の晩餐」

マルコ14章12〜54節

第6日・受難日 金曜日「十字架」

マルコ14章55節〜15章47節

第7日 土曜日「臺の中」

マタイ27章62〜66節（マルコ記述なし）

第8日・イースター日曜日「復活」

マルコ16章1〜8節

■受難週祈禱会

3月28日（木）午前10時半〜12時

【次週、イースター礼拝】3月31日（日）

*第1礼拝 9時より

*第2礼拝 11時より

・イースター特別賛美チームによる
特別賛美があります。

【お祈りください！】

■オールシオン・ホザナ春キャンプ

3月28（木）〜30日（土）

会場 蒲田シオン

中高生は約10名の参加です。

■チャーチ・オブ・チキン

（中高生伝道集会）

3月30日（土）午後2時 3階

【本日の配布物】

・祈禱カレンダー 4月

・イースター感謝献金 趣意書

・世界宣教献金 趣意書

まことに、まことに、あなたがたに言います。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます。

ヨハネの福音書 12章24節

冒頭の聖句は十字架を目の前にしたイエス様の言葉です。

一粒の麦が地に落ちて死ぬとき、そこに新しい命が生まれるというのです。死という命の喪失が、新しい命を生むという出来事にこの世界の命の不思議を考えさせられます。

死は私たち人間にとって、自分の力でコントロールすることができない問題です。この世界の生きとし生けるもので死なないものはありません。その事実は圧倒的なまでに人間に覆いかぶさっています。誰

も、自分の力で死を乗り越えることはできません。

聖書は、死とは、人が罪を犯したことでこの世界に入ったと教えます。「罪の報酬は死です」（ローマ6:23）とある通りです。

それは肉体の死だけではありません。罪は私たちの人間関係を破壊し、私たちの人生に暗い影を落とします。罪のゆえに、私たちは神から与えられた人生の豊かさを失い、つらく苦しいばかりの道を進まなければならぬことがあります。

その罪の問題を解決するためにイエス様

が私たちの罪を背負って十字架に架かってくださいました。私たちの罪の罰を引き受けて身代わりとなられただけでなく、神の大能の力によって復活し、信じる者に永遠の命を与える道を開かれました。

ですから、今、イエス・キリストを救い主と信じる人には、死は全く別の意味を持つようになりまし。イエス様が十字架で死ぬことによって私たちに命が与えられたように、私たちの愛する者の死や、意味がないと思えるような苦しい経験、そして自分自身の死も、キリストにあつて意味を見出すことができます。だから私たちは、どんなにつらくても、苦しい中にあつてもあきらめる必要はなく、慰めと励ましという言葉を紡ぐことができるのです。キリストの十字架は私たちの希望です。（泰）

3月24日	パームサンデー	
第1礼拝	9時	荻野牧師 荻野ま兄
第2礼拝	11時	戸梶 姉 高橋美姉
前奏		
招詞	詩篇46篇10節	
会衆賛美	聖歌651	
会衆賛美	神の国と神の義を(歌詞4面)	
主の祈り		
交誦	詩篇22篇1〜11節 (旧約聖書 952頁)	
礼拝祈禱		
使徒信条		
聖書朗読	ヨハネの福音書 12章20〜26節 (新約聖書 209頁)	荻野牧師
説教	死の意味	
会衆賛美	聖歌396	
献金		
頌栄	聖歌376	
祝祷		
報告		
感謝祈禱	奏楽	

【招詞(主の招きのことば)】
詩篇46篇10節 「やめよ。知れ。わたしこそ神。わたしは国々の間であがめられ 地の上であがめられる」
アーメン

【本日の予定】
■会堂清掃 第1・第2礼拝終了後

■小学科ホザナ礼拝 3階 11時〜

■バイブルカフェ
談話室 12時半〜

■イースター特別賛美練習
礼拝堂 13時〜14時半

■役員会
4階牧師室 14時45分〜

【本日の礼拝奉仕者】

■第1礼拝
礼拝祈禱 司会者
聖書朗読 司会者

献金1階 司会者
献金祈禱 荻野牧師
報告 荻野牧師

受付 配信チーム

■第2礼拝
礼拝祈禱
聖書朗読
献金1階
1階
2階
献金祈禱 司会者
報告 荻野牧師
会場 荻野牧師
受付

【来週の礼拝説教】
イースター
説教者 荻野牧師
聖書箇所 ヨハネの福音書
20章1〜18節

【定期教会総会 報告】
お祈りを感謝いたします。定期教会総会を無事に終えました。

■議案について
賛成多数をいただき、すべて承認を
得ました。

- ・任期は2年間で、2024・2025年度
 - ・各部の担当については後日発表します。
 - ・今期をもって退任されるお二人にこれまでの尊いご労に感謝します。
- これからは役員とは違う立場で奉仕をしていただきます。今後もしよろしくお願います。

《教会総会を終えて。主任牧師より》
執行役員の数については、総会でも説明し、総会資料にも書いた通り、本来なら7名と教会規則(細則)に定められておりますが、今回候補者としてお願ひできたのは5名でした。

すでに数年来、定員7名をそろえることが精いっぱい前回改選時は6名でした。本来ならば今回改選において定数を5名に変更するなど、提案をしたり、何か対応できたのではないかと反省し、このような状況になったのは主任牧師の準備不足で申し訳なく思います。

総会においてはこの状況をご理解くださり、「承認いただいたことを感謝申し上げます。」

この状況から改めて兄弟姉妹にご理解いただきたいことは、蒲田シオン教会は変化の時を迎えているということ
ことです。

変わるということは簡単ではありません。特に蒲田シオンのようにかつては勢いよく成長した経験があるところから変わることは容易ではありません。これで大丈夫かという不安が伴います。けれども、生みの苦しみにという言葉の通り、新しくなるために

は苦しみが伴うものです。そうは言っても、苦しみで終わらないか、という不安がさらにつきまといきます。

そんな葛藤を抱える私たちの望みは十字架と復活の主です。

主イエス様は、私たち罪人を救うために十字架の苦しみを負いました。それは死に至る苦しみでした。しかし主の御苦しみは、死で終わるものではなく、信じる者に罪の赦しと永遠のいのちを与える道を開いてくださいました。

私たちは、十字架と復活の主にあって、苦しみの先には栄光があると信じることが出来ます。

No cross, no crown.
十字架なくして、栄光なし

創立者はこの言葉を掲げました。週報巻頭に印刷しているマークの原案は創立者のデザインと聞いています。

この言葉を逆に読めば、主において苦しみなら、その先には栄光があるということ。人間は将来のすべてを見通せません。しかし、全知全能の主は行く先をご存じて私たちを導かれます。主が私たちをここに導かれるかを期待して一歩一歩進みましょう。